

2.3 委員会活動報告

- 2.3.1 理学部教務委員会 . . . 141
- 2.3.2 理学部教務委員会 教育改善部会 . . . 142
- 2.3.3 理学部教務委員会 教育実施部会 . . . 144
- 2.3.4 理学部広報委員会 高大連携部会 . . . 146
- 2.3.5 理学部広報委員会 情報・広報部会 . . . 148
- 2.3.6 理学部入試委員会 . . . 149
- 2.3.7 理学部就職指導委員会 . . . 150
- 2.3.8 理学部学生生活委員会 . . . 151
- 2.3.9 理学部国際交流委員会 . . . 154
- 2.3.10 理工学教育部修士課程理学領域部会教育委員会 . . . 156

2.3.1 理学部教務委員会

教務委員会委員長 唐原一郎

1. 委員会開催日

4月13日に開催した。

2. 令和4年度に検討、実施した事項

令和4年度の理学部教務委員会は、全体としての会議において、教務関係の全学委員会委員の選出の後、令和4年度前期のTOEIC英語eラーニングの実施について審議した。改善部会と実施部会に分かれ、教務に関する以下の課題に取り組んだ。各部会を中心とした活動は各部会報告で詳細に報告する。

理学部教務委員会活動計画について

教育改善部会と教育実施部会の活動計画について整理検討することとした。

今年度は中期目標・中期計画についての対応はなくなったが、昨年度挙げられていた項目で本年度も行ったものについては残し記載した。

カリキュラムの改善について

- ・学生のアンケート調査を卒業時調査と同時に行った。

評価結果に基づくシラバスの改善について

- ・繰り返し学生アンケート等を実施し、その結果に基づき、シラバスの改善を図った。

シラバスに明示した基準に基づく成績評価について。また、GPA制度を活用した進級・卒業要件等を明文化し、規則等に反映させることについて

- ・学生からの成績評価に関する申し立て、学期・学年・累積GPA等により、成績評価基準について検証した。
- ・GPA制度を活用し、一定値以下の学生に対して進級時に十分な指導を行うとする方針を策定し、実施した。
- ・評価結果により、記載基準を見直し、シラバスの見直しを実施した。

2.3.2 理学部教務委員会 教育改善部会

教育改善部会長 唐原一郎

1. 部会開催日

5月20日(第1回), 6月28日(第2回), 10月12日(第3回), 11月24日(第4回), 2月13日(第5回), 2月21日(第6回)の計6回開催した。

2. 令和4年度に検討, 実施した事項

(1) 教員職能開発活動(FD)の実施

本年度のFDは, 大学院理工学教育部修士課程教育委員会との共催で, 発達障がいの学生へのサポートについて(演題: 発達障がいの学生へのサポートについて, 講師: 本学学生支援機構 学生支援センターアクセシビリティ・コミュニケーション支援室主任コーディネーター(特別支援教育士) 日下部 貴史 氏)を1回開催した。

(2) 卒業時調査の実施

昨年度に卒業生に実施した調査の結果を分析した。令和4年度卒業生を対象とした調査を実施した。昨年度に引き続き, 理学部独自設問に加え, 全学共通の設問も含むアンケートとした。アンケートの継続性を考慮し, 基本的に昨年度のものを踏襲した。

(3) 理学部英語学修プログラムの実施

グローバル人材の養成を目的として, 令和4年7月および12月にTOEIC IPテストを受験させた。専門基礎科目として前期および後期にTOEIC 英語 e-ラーニングを実施し, 単位認定を行い, 成績優秀者に対しては表彰を行った。

(4) 成績評価の厳格化について

成績評価の厳格化に関して前年度のものと比較し点検した。成績評価分布の目標に対する取り組みの成果が出てきており, 引き続き教務から教員への成績登録バッチ期限のリマインダーメールを配信する際に, 成績評価分布の目標について周知を図ることで, 更なる改善を図っていくこととした。

(5) GPA を活用した学修指導の実施について

昨年度全学的に対応することが決められ履修のしおりに記載されたことを受け, これを実施した。

(6) CAP 制についての検討

CAP 制の上限見直しに関する検討を行い, 学部改組で大規模なカリキュラムの見直しが行われる直前であるため避けることとした。教職課程を履修する学生への配慮が無ければ, 年間48単位の制限は厳しく, 教職支援の観点から足かせとなることや, また無理な見直しにより, 留年生の更なる増加も危惧される点も指摘された。

(7) DP 達成度調査について

全学で学年末に行うDP達成度調査の実施に協力した。また全学FD・教育評価専門会議の要請で2018年度から2021年度にかけて, 年度を通じた卒業時のDP達成度のアンケート調査の分析を行った。

(8) 理学部履修のしおりの見直しについて

学科名の変更, 理学部規則の変更, 理学部カリキュラムの変更等を受け, 履修のしおりの見直しを行った。都市デザイン学部科目「全学横断PBL」の更なる全学展開へ向けた展開への対応として, 追加することとした。昨年度了承されていた「情報と職業」も追加された。

(9) TOEIC 英語 e-ラーニングの単位認定について

条件をすべて満たした学生に対し単位認定を行った。

(10) 成績異議申立てについて

成績異議申し立て制度について学生へ通知した。

(11) 学修成果の可視化について

積算能力評価表（レーダーチャート）において、科目ごとの重み付け係数の設定を行い、標準的なレーダーチャートの例を出せるようにし、今後、個別面談での履修指導に活用することとした。

(12) 学部横断型教育プログラム「ENGINE 教育プログラム」への参画について

就職指導委員長・同窓会事業委員長からの了承を得て、「理系キャリアデザイン」を追加することで参画することとした。

(13) 学芸員科目の取扱いについて

令和5年度の学芸員科目の取り扱いについて、これまでと同様の取り扱いとすることとした。

(14) 五大学連携単位互換科目について

これまで唯一提供にご協力頂いていた自然環境科学科「野外実習Ⅰ（立山実習）」が提供できなくなったことを受けて、新たな提供科目を模索し、生物学科「野外実習Ⅰ」を提供頂けることとなった。

(15) 教育実習インシデント事案への対応について

令和4年度教育実習インシデント事案は6件中5件が理学部であったことを受けて対応が必要となっている。教育実習事前指導・注意事項チェックシートもしくは誓約書を検討することとした。

(16) カリキュラムアンケートの開示について

カリキュラムアンケートにおける学生の意見に対し、回答できるものについては回答を付け、学務課の掲示板において開示することとした。

(17) 学修ポートフォリオ（キャリアカルテ）について

R4・5にかけて試行的に個別面談で活用することとした。

2.3.3 理学部教務委員会 教育実施部会

教育実施部会部会長 林 直人

1. 部会開催日

5月9日（第1回）、6月30日～7月4日（第2回メール審議）、8月9日（第3回）
10月25日（第4回）、12月20～22日（第5回メール審議）、1月26日（第6回）
2月22～27日（第7回メール審議）、3月15～17日（第8回メール審議）

2. 令和4年度に審議・検討、実施した事項

(1) 授業時間割（案）の作成

令和4年度後学期授業時間割および令和4年度前学期・後学期授業時間割（案）について、各学科で作成した時間割案をとりまとめて審議し、教授会に付議した。

(2) 既修得単位、大学以外の教育施設等における学修および他大学における単位認定

第3年次編入学生の既修得単位の認定、実用英語技能検定・TOEIC IPの成績等に基づく単位の認定、海外短期語学研修における単位の認定、大学コンソーシアム富山単位互換科目(他大学開講)の単位認定について審議し、教授会に付議した。

(3) 観察実験アシスタント業務における単位認定

観察実験アシスタント業務において、所定の時間以上の勤務実績がある学生5名に対しての単位認定を審議し、教授会に付議した。

(4) サイエンスメディエーターの認定について

本年度は、学生1名の応募があった。令和4年12月21日にプレゼンテーション審査会を開催し、プレゼンテーションと書類審査を総合して応募者全員を合格とし、サイエンスメディエーターとして認定することを教授会に付議した。審査委員は3名の教員が担当した。

(5) 令和4年度前学期理学部 TOEIC IP テストの表彰について

7月に実施した理学部 TOEIC IP テストの成績優秀者の表彰について審議し、対象学生を選定した。

(6) 令和4年度前学期 TOEIC 英語 e-ラーニングの単位認定について

令和4年度前学期の TOEIC 英語 e-ラーニングの単位認定について審議し、従来の基準に従い対象学生を選定した。

(7) 令和4年度教育実習事前・事後指導について

令和4年度教育実習に係り、事前指導および事後指導について、学科輪番により本年度は物理学科の教務委員が担当し、4月20日および12月21日に実施した。

(8) 5大学理学部連携単位互換制度の単位認定について

5大学理学部連携単位について、各学科の認定基準等の素案を策定するとともに、申請があった場合は履修内容を確認の上、認定を希望する学生の所属学科の「特別講義」（専門科目）として認定の可否を決定することとした。

(9) 教職実践演習の最終評価と教職課程認定変更届けについて

教職実践演習の最終評価を教務委員が担当した。また、各学科での教職課程認定変更内容について精査し、届出書類を確認した。

(10) 令和5年度授業日程（案）の審議

令和5年度授業日程のうち理学部補講日について審議し、教授会に付議した。

(11) 令和5年度新入生行事日程

令和5年度新入生行事日程について審議し、教授会に付議した。

(12) 理学部第3年次編入学生等の既修得単位の取扱いに関する申合せの改正

理学部第3年次編入学生等の既修得単位の取扱いに関する申合せの改正について審議し、学科長会

議及び教授会に付議した。

(13) 富山大学、金沢大学及び福井大学における数理・データサイエンス・AI に関する授業科目の単位認定について

富山大学、金沢大学及び福井大学における数理・データサイエンス・AI に関する授業科目の単位認定について審議し、自由選択科目として認定することを教授会に付議した。

2.3.4 理学部広報委員会 高大連携部会

広報委員会委員長 高大連携部会長 青木 一真

1. 2022年度の全般の広報活動について

2022年度の全般の活動は、2020年度からの新型コロナウイルスによる移動制限やオンライン対応など、活動の制限や様々な制約があり、引き続き、本来の広報活動が出来なかった。ただし、徐々に回復傾向にあるため、感染予防対策を万全に、高大連携事業を行った。

2. 高等学校生徒・保護者の理学部訪問

高等学校からの理学部訪問数は18校（県内10校、県外8校）であり、昨年より8校増えた。特に、県外からの訪問が増えた。いずれも理学部校舎で行った。高校生の訪問の場合には事前に模擬授業、施設見学、もしくは双方の希望の連絡があるため、それぞれの希望に合わせて実施した。高校からの理学部訪問は6月から10月までの間に行われた。

3. 高等学校訪問

富山県、石川県、福井県、岐阜県、愛知県内の14高等学校を訪問もしくは、オンラインで理学部の紹介または模擬授業を兼ねた理学部紹介を行った。新型コロナの影響により、Zoomによるオンライン対応もあったが、少しずつ対面開催が出来るようになってきた。高等学校での希望が模擬授業であっても、模擬授業と理学部紹介の双方を希望している場合が多いことが判明していることから、模擬授業の依頼であっても理学部紹介も行うようにした。これまでと同じく対象学年は主に1,2年であった。なお一部の高等学校では複数学年が混在していた。また、新型コロナの影響なのか、通常は10月までの依頼が、11月～1月にも依頼があった。

4. 探究科学科等の課題研究への協力

富山県内の探究科学科設置校である富山中部、富山、高岡の3高等学校、県内の高岡南高校、富山東高等学校、氷見高等学校、北信越地区高等学校自然科学部の課題研究に協力した。

課題研究指導

富山中部高等学校に教員5名、富山高等学校に5名、高岡高等学校に教員2名、氷見高等学校に教員1名、富山東高等学校に教員6名、砺波高等学校に教員1名、北信越地区高等学校自然科学部に教員1名が課題研究の指導または発表会の講評に協力した。富山中部高等学校、富山高等学校、それに高岡高等学校とは派遣教員希望数および課題研究の内容の提示があったため、学部内で課題研究テーマに専門の近い教員へ依頼した。

5. オープンキャンパス

オープンキャンパスは、2022年8月2日に理学部校舎で対面開催となった。高校生にわかりやすい学部・学科説明を行うために、ウェブにより動画を公開した。

6. 氷見ラボでの教育活動

ひみラボにおいて、大阪高校生を対象とした「富山研究合宿」を開催した（高校生対象：3月29～30日）。

7. 社会教育関係職員の研修活動を支援・サポートして地域との連携をはかる

氷見市イタセンパラ保護活用指導委員会委員として、研修活動を専門的な立場から教員1名が支援・サポートを行った。

8. 次年度の探究科学科との連携

探究科学科設置3高等学校との間で次年度の高大連携について意見交換を行い、高等学校から提出された計画書に基づいて、派遣要請教員の分担を理学部、工学部、都市デザイン学部との間で協議を行う

予定である。

9. 「りっか」の発行

理学部後援会会報「りっか」第18号の編集を、広報委員長、理工系総務課長、「科学コミュニケーション」担当の川部達哉准教授、島田互准教授、それに能登印刷の担当者、インタビュアーの連携で行った。

10. その他

- ・富山県ではSSH（スーパーサイエンスハイスクール）に富山中部高等学校・探究科学科が指定されている。その運営指導員として教員1名が協力した。
- ・富山東高等学校の運営指導評議会委員として教員1名が協力した。

2.3.5 理学部広報委員会 情報・広報部会

広報委員会 情報・広報部会長 山元 一広

1. 理学部案内（スペクトラ）の作成（資料1参照）

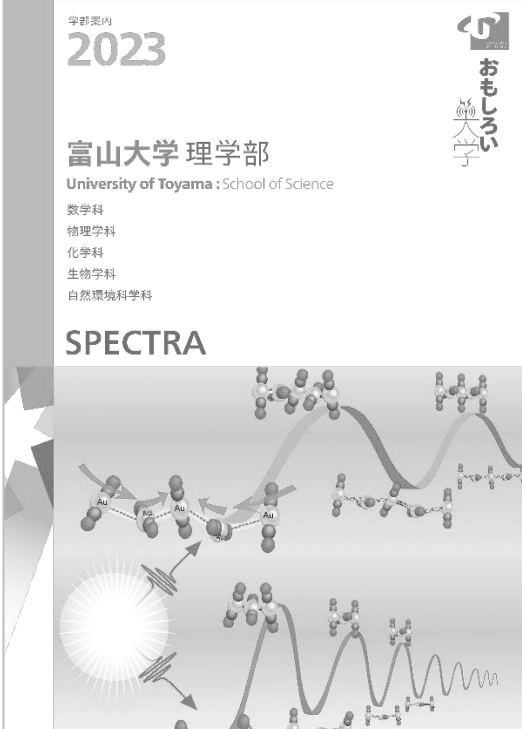
令和4年度理学部案内（スペクトラ 2023）を作成した。今年度は発行部数を4,000部として発注し、8月に納品された。理学部案内は、高校訪問や出前講義などで配布するとともに、理学部のウェブページにて閲覧できるように、電子ブック版及びPDF版を公開した。

令和5年度理学部案内に関する検討を行い、印刷部数や納品時期を決定した。理学部再編に関しても取り込むこととし、内容とページ増を決定した。

2. 理学部ホームページの更新・改訂

- ・ ホームページのリニューアル作業を行い、8月初旬に完了した。
- ・ サーバに関する検討を行った。
- ・ イベント、受賞、講演会などに関する情報を随時発信し、「トピックス」では理学部で行われている研究内容（7件）を紹介した。
- ・ 学生インタビュー動画を3本、特命助教による講演動画1本を作成し、理学部ホームページや富山大学理学部公式YouTubeで紹介した。

（資料1）理学部案内（スペクトラ）

	ようこそ！富山大学理学部へ.....	1
	表紙写真紹介.....	2
	TOPICS.....	3
	研究者レポート.....	4
	数学科.....	5
	物理学科.....	7
	化学科.....	9
	生物学科.....	11
	自然環境科学科.....	13
	教員研究テーマ.....	15
	大学院と大学関連施設.....	17
	データが語る富山大学理学部.....	19
	キャンパススケジュール.....	21
	キャンパスライフ.....	23
	Q&A.....	25
	入試情報.....	26

理学部案内 2023 の表紙と目次

2.3.6 令和4年度 理学部入試委員会活動報告

入試委員会委員長 堀川 恵司

1. 委員会開催日

令和4年4月7日(第1回), 5月10日(第2回), 6月24日(第3回), 9月2日(第4回), 11月1日(第5回), 令和5年3月13日(第6回メール会議)の計6回開催した。

2. 委員長及び全学入学試験委員会等委員の選出

入学試験委員会委員 堀川恵司
電算処理専門委員会委員 堀川恵司, 川部達哉, 柿崎 充
アドミッションセンター会議委員 横山 初

3. 令和4年度入学試験委員会年間計画の作成

審議のうえ, 教授会に付議した案件

- ・令和5年度入学者選抜要項(案)(4月13日)
- ・令和5年度理学部総合型選抜学生募集要項(案)(5月18日)
- ・令和5年度入学試験成績一覧表(案)及び電算処理仕様書(案)(5月18日)
- ・令和5年度第3年次編入学試験実施マニュアル(案)(5月18日)
- ・令和5年度第3年次編入学試験要項(案)及び同実施要項(案)(5月18日)
- ・令和5年度特別選抜, 一般選抜及び私費外国人留学生選抜学生募集要項(案)(7月13日)
- ・令和5年度総合型選抜要項・実施要項(案)(9月7日)
- ・令和5年度理学部第3年次編入学第2次募集日程表(案)及び同募集要項(案)(9月7日)
- ・令和5年度富山大学理学部特別選抜要項(案)及び同実施要項(案)(11月9日)
- ・令和5年度第3年次編入学(第2次募集)試験要項(案)及び同試験実施要項(案)(11月9日)
- ・令和6年度理学部第3年次編入学学生募集要項(案)(令和5年3月24日)
- ・令和4年度活動報告(案)

4. 入試関連懇談会等への教員派遣

・高等学校と富山大学との入学試験に関する懇談会
(7月26日, 於富山大学, 松田恒平, 柿崎充)

5. 受験者数と入学者の質の維持向上に関する検討

どのように受験者数を担保していくかについて, 以下の点を中心に意見交換を行った。

- ・YouTube, SNS 等を利用した入試情報発信の可否
- ・高等学校と本学との入学試験に関する懇談会での学部説明内容の充実
- ・オープンキャンパスにおける対面方式での実施内容の充実
- ・学部広報委員会との連携

これら議論の中で, 特に早急に対応が必要なこととして, 高等学校との入試懇談会で使用される「理学部の学部説明スライド」の改善が挙げられた(他学部と比べデザインで見劣りする)。【次年度の課題】

2.3.7 理学部就職指導委員会

就職指導委員会委員長 田中大祐

就職活動時期の変更，求人状況の変化などに伴い，学生への就職支援をさらに充実させることが求められている。そのために就職指導委員会として以下の活動を行った。

1. 理学部3年生を対象にしたキャリア支援ガイダンスの開催

4月20日(水) 13:00~14:30 会場：理学部多目的ホール

- ・日比野コーディネーター(就職・キャリア支援センター)「富山大学の就職・キャリア支援について」
- ・田中教授(理学部就職指導委員長)「2021年度理学部卒業生の進路」
- ・村田 恭平 氏(株式会社リクルート)「就活スタートアップ講座」

10月12日(水) 13:00~14:30 会場：理学部多目的ホール

- ・村田 恭平 氏(株式会社リクルート)「キャリアについて考える，今からできること」
- ・東海 裕介 氏(株式会社マイナビ)「VUCA時代の就職・キャリアガイダンス」

2. 理学部1年生を対象としたキャリアガイダンスの実施

6月10日~3月31日 moodleによるオンデマンド方式

1. 尾山 特命准教授(就職・キャリア支援センター副センター長)「大学生生活の送り方」
2. 東海 裕介 氏(株式会社マイナビ)「1年生の心構え」

3. インターンシップへの取り組み

インターンシップ希望者に対してインターンシップを行うにあたっての研修(講習会)を以下の通り実施し，理学部生18名が参加した。

7月6日(水) ①14:45~16:15 ②16:30~18:00 会場：理学部多目的ホール

4. 理学部就職・進学合同説明会の開催

10月26日(水)14:45~15:45 会場：理学部多目的ホール

- ・就職内定者による就職活動体験談発表
三谷 武寛 さん(理学部物理学科)
今村 虹輝 さん(大学院修士課程化学専攻)
- ・田中就職指導委員会委員長「就職実績の現状と今後の対応について」

5. 理学部就職関連情報 Web ページの運営

理学部ホームページ内に設置している就職支援情報のWebページに，本年度の就職支援講習会や説明会，インターンシップ情報などを掲載した。

6. その他

就職指導委員会の開催(2回)，富山大学「就職の手引き」の配布など，これまで行われてきた委員会活動を継続して行った。

2.3.8 理学部学生生活委員会

学生生活委員会委員長 井川 善也

はじめに

本委員会は、学部学生に加え、大学院生や外国人留学生を含む本学理学部に在籍する学生が大学に入学してから社会に巣立つまで、心身共に健康な生活を送るため、就学および生活に関する支援を行う。この支援には、大学生活上のさまざまな問題や悩み、福利厚生に関する相談事なども含まれる。また学生が主体となって開催するサイエンスフェスティバルの支援、全学の学生支援センター会議と連携してクラブ活動の支援、奨学支援活動も行う。本年度の主な活動内容は以下の通りである。

1. 委員会開催日

第1回 4月18日 第2回 12月7日
第3回（メール会議） 3月23日～28日

2. 学生生活に関するFD研修会の実施

7月13日(水) 13:00～13:30に、「学生の相談内容の傾向と対応について」という演題で、教職員を対象とした講演会をオンラインにて開催した。学生支援課（学生生活相談員）の八島不二彦様をお願いし、本学および理学部の相談件数のデータの紹介から始め、学生の抱える問題や相談内容の傾向や対応、教員からの指導やコミュニケーションの注意点などを解説頂いた。講演終了後、学生相談を必要とする学生への、教員からのサポートや指導に関して意見交換が行われた。

3. 著作権及び知的財産所有権保護に関する説明会の実施

P2Pソフトの使用、違法コピー等の著作権侵害の防止を目的として、総合情報基盤センターの遠山和大先生を講師に迎え、理学部4年生及び大学院理工学教育部修士2年生以上（いずれも留学生を含む）を対象として説明会を開催した。過去2年は新型コロナウイルスの影響で、それまでの開催時期を例年の6、7月から10、11月に変更していたが、本年は2019年度以前と同じ7月に時期を戻して開催した（計3回開催：7月15日、7月19日、7月25日）。対象学生は全員参加とし、各回の受講人数を厳格に管理し、3蜜を避けて実施した。受講後にはレポートの提出を課した。

4. 防犯および消費生活知識に関する講習会

富山西警察署から提供いただいた防犯に関する講習ビデオ、および富山県消費生活センターから提供いただいた電子版資料をそれぞれ用い、Moodleを用いたオンラインでの動画や資料の配信（オンデマンド受講）により実施した。令和4年11月16日から12月22日を受講期間として実施し、受講後にはレポートの提出を課した。

5. サイエンスフェスティバル 2022 の支援

本年度のサイエンスフェスティバルは9月24日(土)、25日(日)の2日間に亘り、2019年以来3年ぶりに対面で開催された。学生生活委員は、各学科の事故やトラブル発生時の対応支援のため登校し、巡回や連絡待機を行なった。コロナ以前よりは規模は縮小されたものの、学生による実験展示(科学実験ブース)企画、サイエンスカフェ企画などが、学生を主体として企画運営された。2日間とも事故の発生もなく、全企画行事を予定通りこなして盛況の内に終了した。

6. 留学生や障害のある学生に対する支援

学部及び大学院で修学する外国人留学生と学生生活委員会委員との懇談会を、令和5年1月25日に実施する予定であったが、当日大雪によるキャンパス休講のため開催を中止した。2月以降に改めて開催することを検討したが、年度末となり実施可能日や教員学生双方の参加可能者が限られることから、今年度は開催を見送ることとした。

留学生の要望や困っている点については、例年通り学生生活に関するアンケートを実施し調査を行った。

令和3年度の第4回委員会で審議承認された令和4年の「全学的共通経費(外国人留学生経費)による外国人留学生支援事業」の企画公募に工学部、理学部、都市デザイン学部の共同企画提案(外国人留学生実地見学旅行)が採択され、9月15-16日に実施された。理学系教員の指導学生からは大学院生2名が参加し、教員1名(井川)が引率として参加した。令和5年の全学的共通経費(外国人留学生経費)による外国人留学生支援事業の公募に対し、同様の見学旅行を3学部の共同企画として提案することが第3回委員会で審議承認された。

7. その他

学生の学修と生活に対するサポート体制の充実と、定期面談等を介した学生の修学生活指導の確実な実施が全学的に求められている。本委員会では「助言教員の学生指導・支援の際の留意事項について」のマニュアルや「教職員のための学生サポート・マニュアル」の活用を呼びかけるとともに、助言教員による年2回の定期面談の実施率を学期毎に複数回、学科ごとに集計した。その結果を各学科長と学生生活委員会委員に報告し、面談実施率100%に向けての情報提供を積極的に行った。

8. 次年度への継続課題

本年度から大学院修士課程が改組され、理工学研究科および2つの学環により学部の枠を超えた大学院教育がスタートした。それに伴って、これまで理学部学生生活委員会が実施してきた修士課程学生の支援内容の一部も(著作権の講習など)も大学院共通科目などで実施されるようになった。また持続可能社会創成学環では留学生支援を行う制度が制定されたことなども踏まえ、大学院修士課程の学生生活支援、特に留学生支援について、工学系や

各大学院修士課程の動向も踏まえつつ次年度以降も継続して検討することとした。

「全学的共通経費（外国人留学生経費）による外国人留学生支援事業」に採択・実施された外国人留学生実地見学旅行は、令和3年度の委員会報告では3学部で共同申請した旨が国際交流委員会の活動報告として記載されている。一方、学生生活委員会の令和3年度の委員会報告には記載されていないが、本年度（令和4年度）の見学旅行の実施対応は学生生活委員会委員長が行った。本事業は全学では国際機構、工学部および都市デザイン学部では国際交流委員会が担当しているため、本事業の申請や実施の主体や役割分担について、国際交流委員会と学生生活委員会の間で協議が必要と思われる。

2.3.9 理学部国際交流委員会

国際交流委員会委員長 倉光 英樹

はじめに

国際交流委員会では、理学部の国際交流を推進するために、必要な諸課題について継続的に検討しつつ必要な業務を実施した。具体的な活動は以下の方針に基づいた。前年度から継続し委員会の年度計画に記載されている活動を推進する、今後重要と考えられる案件について検討する。短期語学研修や留学生説明会などが新型コロナウイルス感染症の影響で中止になったり、オンラインで開催されたりするなど、例年通りの活動ができなかった一方で、コロナ禍、アフターコロナの新しい国際交流事業が執り行われるようになり、今後の活動の在り方について検討が必要であることが浮き彫りとなった。

1. 委員会開催日

- 第1回 4月8日
 - 第2回 4月25日～27日
 - 第3回 5月12日～13日
 - 第4回 6月9日～16日
 - 第5回 10月13日～20日
 - 第6回 12月19日～21日
 - 第7回 12月19日～21日
- (第2回～7回はメール会議として開催)

2. マレーシア(トungk・アブドゥル・ラーマン大学, UTAR)での英語研修の実施

本学部が主体となり平成26年度に開始したマレーシア・UTAR(トungk・アブドゥル・ラーマン大学)での短期語学研修は、4学部(理学部・工学部・経済学部・都市デザイン学部)による共同実施プログラムとして実施していたが、昨年度からは、全学の語学研修として実施することになった。本年度は、コロナ感染症の影響により非対面での実施となったが、参加学生からは好評を得ており、引き続き実施する予定であると共に、来年度は短期受入れを行う予定である。

3. 学生の海外派遣、留学生の受け入れ事業の推進

令和4年度海外留学支援制度(タイプB)には、「欧米諸国における持続型基礎研究留学プログラム」(理)を継続申請したが、当該支援事業の規定が渡航期間31日以上での研修のみが対象になったため、既存プログラムでの新規申請はしなかった。今後、新たな事業の検討が必要である。

富山大学五福キャンパス国際交流事業基金「大学院外国人留学生奨学金援助事業」に2名を推薦した。

令和3年度から公募申請となった、全学的共通経費(外国人留学生経費)による外国人留学生支援事業に以下の3件の企画を申請したが1件のみ採択された。

外国人留学生の人的学修・就職支援経費

(執行予定額: 250千円, 配分額: 250千円)

外国人留学生のための特別研究経費

(執行予定額: 300千円, 0千円)

博士課程留学生の”研究の質”向上に資する洋書専門図書の購入・整備

(執行予定額: 200千円, 配分額: 0千円)

また、令和5年度の全学的共通経費(外国人留学生経費)による外国人留学生支援事業に以下

の2件の企画を申請した。

外国人留学生の人的学修・就職支援経費

(執行予定額：250千円)

大学院留学生の”研究の質”向上に資する洋書専門図書の購入・整備

(執行予定額：200千円)

さらに、同支援事業に工学部、都市デザイン学部、理学部が共同で、以下の企画を申請した(申請は工学部より)。

外国人留学生の日本文化理解・日本の工場における生産技術等の学習の補助

(執行予定額：1,200千円)

令和4年度「外国人留学生のためのオンライン富山大学説明会」に参加した。昨年度に引き続き、本学部への入学を希望する留学生に対応した。

昨年に引き続き、県内外の日本語学校に対して、大学院改組と持続可能社会創成学環の入学説明会を実施し、数名が入試を受けた。

ASEANからの優秀な留学生の獲得を目的とし、昨年度申請した「国費外国人留学生の優先配置を行う特別プログラム」に伴う留学生を受入れた。また、入試はオンラインで今後も実施することになった。

4. 大学間・部局間学術交流協定の締結

「アテネオ デ マニラ大学との大学間学術交流協定締結」「遼寧大学との大学間学術交流協定の再締結」について、審議し、了承した。

5. 他の委員会との連携事業

日本人学生の英語による教育向上のために、教務委員会・教育委員会と連携しながら、継続してTOEIC受験を推進した。

英語による授業およびシラバスの英語化を修士課程で推進するために、本年度は「学部プロジェクト推進経費」(学長裁量経費(部局長リーダーシップ経費))を活用した。

学部および大学院留学生向け文書を指導教員と同時にチューターにも送信し、題目・見出し文書などの英語化を継続して実施した。

6. 昨年度からの引き継ぎ課題および次年度への引継ぎ課題

これまでJASSOの支援を受けて実施してきた海外研修事業に関して、令和4年度以降は31日以上以上の留学のみが支援対象となることから、今後の方針を考える必要がある。引き続き、コロナ禍における教育・研究の国際交流、留学生の受け入れ拡充、在学留学生への支援などの方策を検討しなくてはならない。更に、未渡日学生や「国費外国人留学生の優先配置を行う特別プログラム」採択にともって増加する留学生への対応を検討する必要がある。

2.3.10 理工学教育部修士課程理学領域部会教育委員会

委員長 森脇喜紀

1. 委員会開催日

4月8日(第1回), 5月11日(第2回), 6月9日(第3回), 7月12日(第4回), 9月20日(第5回), 1月17日(第6回)に開催した。

2. 令和4年度の取り組みと成果

(1) 研究指導・講義に係る体制整備

- ・9月・3月修了者の修士論文審査委員を選出し教授会に付議した。
- ・令和5年度開講科目について検討し, 学生等が履修する科目がないことが確認されたため, 開講科目は用意しないこととした。必要に応じて新大学院の科目を履修できることを確認した。

(2) 大学院生を対象とした研究者倫理教育

- ・修士課程2年生を対象として, 日本学術振興会の研究倫理e-ラーニングを受講させることとし, 9月末を目途に受講するよう教員, 学生に周知した。

(3) 授業評価アンケート・修了者アンケート

- ・カリキュラム編成や学修内容に関する要望を調査できるようにアンケートをMoodle上で実施した。昨年度実施した修了者アンケートの結果については, 就職指導委員会や, 新入生オリエンテーションで学生と情報共有することとした。

(4) 大学院修了者の採用企業関係者へのアンケート

- ・企業向けアンケートを実施した。新大学院への移行のため, アンケート結果を本教育部のカリキュラム編成に反映することはできないが, 学修内容に関する要望については今後の授業などに積極的に取り入れて改善するようにした。

(5) FD研修会

- ・発達障がい学生へサポートについての情報交換を行うために, 下記のテーマで教務委員会との合同FD研修会を行った。

・日 時 令和4年11月9日(水) 13:00~13:30(教授会開催前)

・場 所 オンライン (Zoom) 開催

・主 催 理学部教務委員会・理工学教育部修士課程(理学領域)教育委員会

・講 師 学生支援機構 学生支援センター

アクセシビリティ・コミュニケーション支援室

主任コーディネーター(特別支援教育士) 日下部 貴史氏

・テーマ 発達障がいの学生へのサポートについて

発達障がいの学生へのサポートは, 指導教員だけでなく本人に自覚がない場合もあり, 周りが連携しての時間のかかるサポートとなります。理学部でもその重要性は増していると思われませんが, プライバシーのこともあり, 当事者として関わっていない教員には見えにくい事柄でもあります。キャリアサポートまで含めて理学部の学生を支援頂いている, アクセシビリティ・コミュニケーション支援室主任コーディネーターの日下部貴史氏に講演して頂きます。

(6) 令和4年度学部プロジェクト推進経費(学長裁量経費(部局長リーダーシップ経費))について

- ・理学系学生のための新たな情報科学講習会を3月に実施した。大学院生・教員を含め20名が登録・

参加した。以下に実施内容を示す。

時間	内容	会場	担当
3/6(月) 3-5 限	Python による統計処理 統計処理, 平均, 主成分分析, クラスタ分析	理学部端末室	栗本
3/7(火) 2-3 限	Python 入門(プログラミング) 1. Python 入門 - エディタと端末の操作 - エディタで Python プログラムを作成し端末で実行する - Python 入門 (小さい関数の組み合わせとしてのプログラム) - Python 入門 (クラスを用いたプログラム) - Python の標準モジュールの使い方 2. いまどきのプログラミング環境 - PEP8 と linter - venv を用いた仮想環境 - unit test - Markdown でドキュメントを書こう - Git を使ってバージョン管理しよう - Github の使い方	理学部端末室	木村
3/7(火) 4-5 限	Excel を用いた方程式の数値解の解法/最小 2 乗法 - 線形方程式や非線形方程式の数値解を求める基礎的な方法としての二分法, ニュートン - データ解析法としての最小 2 乗法のプログラミング	理学部端末室	森脇
3/8(水) 1-2 限	特異値分解 - 特異値分解, 主成分分析による次元削減 - 特異値分解, 主成分分析と画像処理	理学部端末室	上田
3/8(水) 3-5 限	シングルボードコンピュータ (ラズパイ) を用いた IOT プログラミング ① デジタル信号の制御 スイッチを押して LED チカチカ ② パルス幅変調 (PWM) による出力のアナログ制御 ・ LED 調光 ・ ロボットに用いられるサーボモーターの角度制御 ③ Time-of-Flight(ToF)による距離計測 ・ 超音波センサーで距離測定 ④ シリアル通信の例 ・ アナログ-デジタル変換器(ADC)を使ったセンサー ・ CO ₂ 濃度計 ⑤ 自由制作	C302	野崎

<p>3/9(木) 2-5 限</p>	<p>ラズパイと OpenCV を用いた画像処理プログラミング</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 画像処理に関するデータ構造と色のデータ形式 (RGB と HSV) ・ 塗りつぶし、単色画像、色分解、グレースケール化などの基本操作 ・ 二次元デジタルフィルタ (平均、ガウシアン、メジアン等) ・ CCD カメラからの画像取込み ・ マスクによる画像情報の抽出 ・ 物体の輪郭 (Canny 法、ラプラシアンフィルタ、面積、重心座標) ・ 動く物体の追跡 	<p>C302</p>	<p>野崎</p>
-------------------------	---	-------------	-----------